

第 2 回「日立美術会・Web 展」(有志)

2021 年 2 月 20 日(掲載日)

本「WEB 展」の作品集は日立美術会・ホームページ(<https://hit-art.jp>)のイベントページに掲載しています。

参加者氏名:(敬称略)

天野雅之、有田まさみ、安藤 雅、池田 整、池川正人、石川良教、市川武弘、井出勝彦、岩柳要子、植田千秋、遠藤和枝、岡田理子、大熊善治、小倉裕之、大塚健嗣、大藤啓子、恩田 博、粕谷栄治、川島 肇、金川敏夫、川村善明、喜田祐三、黒田重雄、桑原 裕、源馬和寿、酒井寿紀、酒井康彦、島川修子、島川恭子、鈴木一雄、高橋郁子、田坂鎮男、建脇 勉、野澤修治、二村邦子、堀越としの、堀内節子、松永伍生、松本 茂、宮本裕子、山本達也、山本信之、横田一郎、若狭孝治

以上 44 名

WEB 展の趣旨

2019 年に中国湖北省に発した「新型コロナウイルス」の感染拡大により、約 50 年の歴史を有する私達の美術展(日立 OB 美術会展=>日立美術展)が 2020 年度は休止のやむなくに至りました。自分の描いた作品を仲間に見てほしい、また、仲間が描いた絵を見たい、という希望が強くなり、昨年(2020 年)秋に第 1 回「日立美術会・WEB 展」を開催しました。

実施の結果が好評でありましたので、ここに第 2 回「日立美術会・WEB 展」を実施することにしました。

日立美術会・事務局・喜田祐三

第 67 回「日立美術展」ご予告

コロナ禍により 2020 年秋の(第 66 回展)は中止となりました。

今年(2021 年)秋の第 67 回「日立美術展」は 9 月 27 日(月)~10 月 3 日(日)の 1 週間を予定しています。何とか今年はワクチンが普及して、安心して実施できることを祈っています。

場所は新橋「ギャラリーくぼた」において開催予定です。皆様、どうぞ、力作をご出品ください。

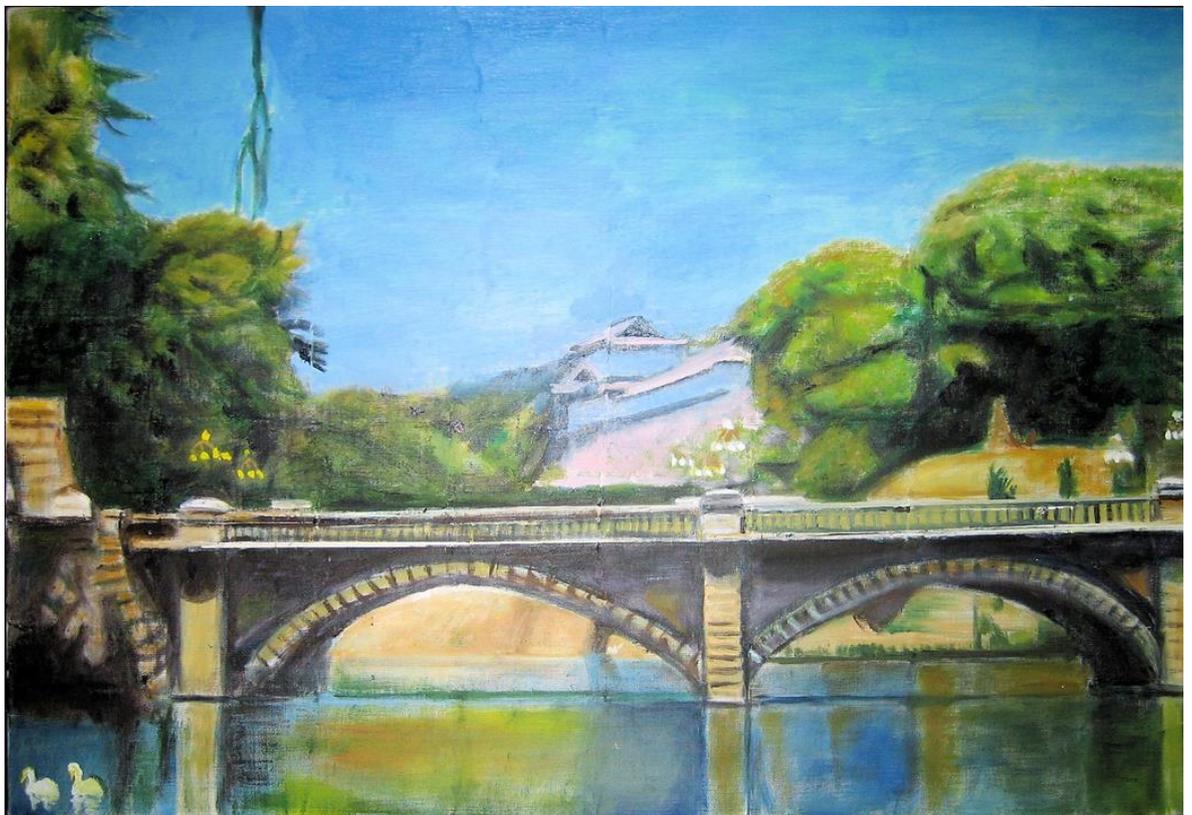
日立美術会・展覧会委員会



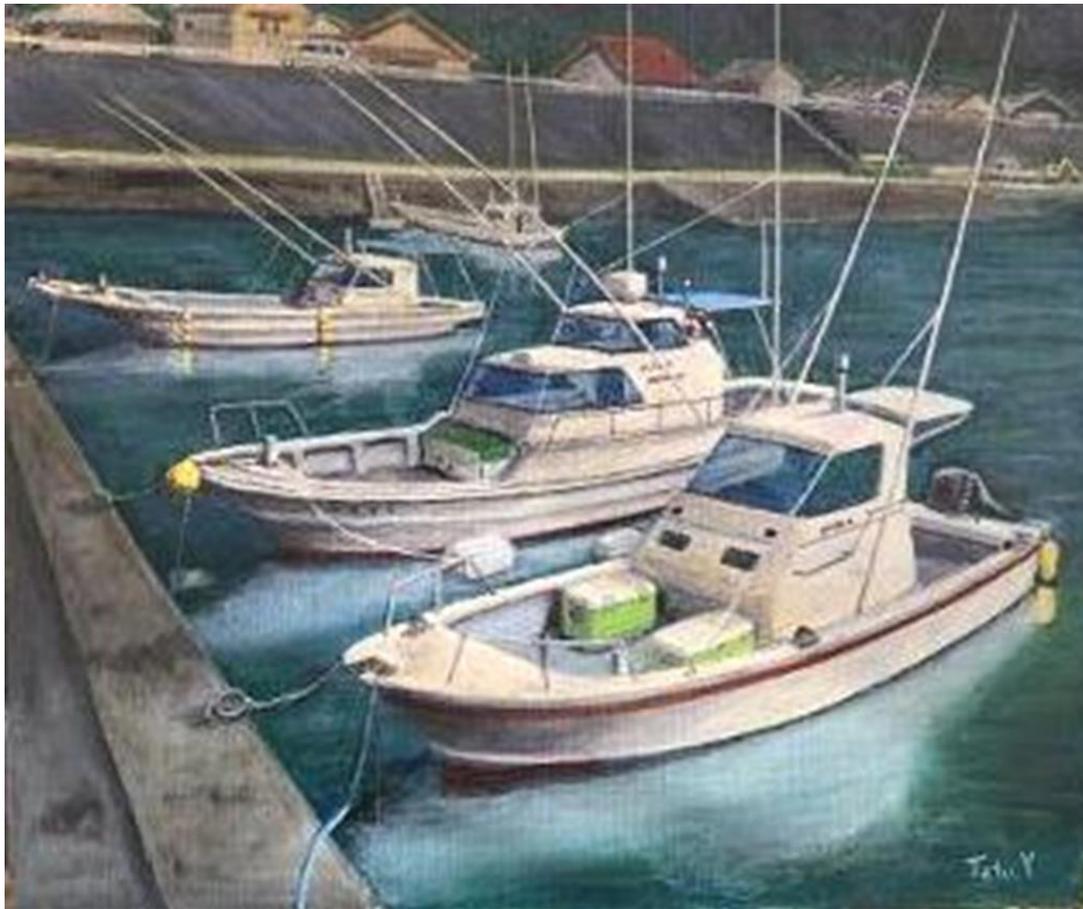
横利根閘門は、船舶往来の為の水位の調整と利根川の逆流防止を目的として大正年代に建設された国の重要文化財です。現在も重要な機能を果たすとともに、釣りの名所を提供しています。本作品は、重要文化財と重文に無関心な釣り人を対比させました。

若狭孝治 「横利根閘門と釣り人」 F100 (油彩)

我々、日本人にとって心の拠り所であり大切な皇居と二重橋。令和の御代になって、初めて二重橋を描いてみました。



横田一郎 「二重橋」 M20 (油彩)



コロナ禍で外出自
粛のさなか、蓄え
ていた写真を基
に、好きな題材で
ある漁港の絵を描
いてみました。

山本達也「漁港」 F10（油彩）

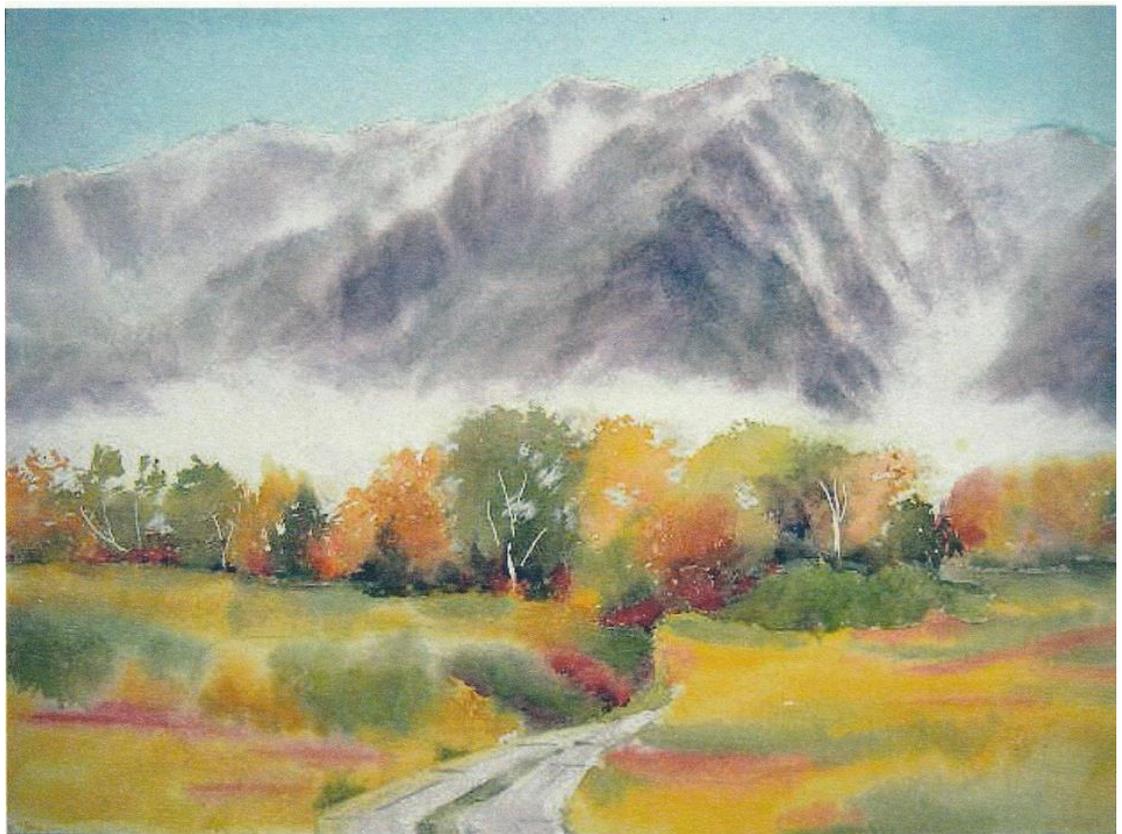


山本信之「ケシ」 F8（油彩）



下町で育った
私は スケー
ルの大きいア
リゾナの景色
に圧倒的な力
を感じました。

宮本裕子「アリゾナの月」F100（油彩）

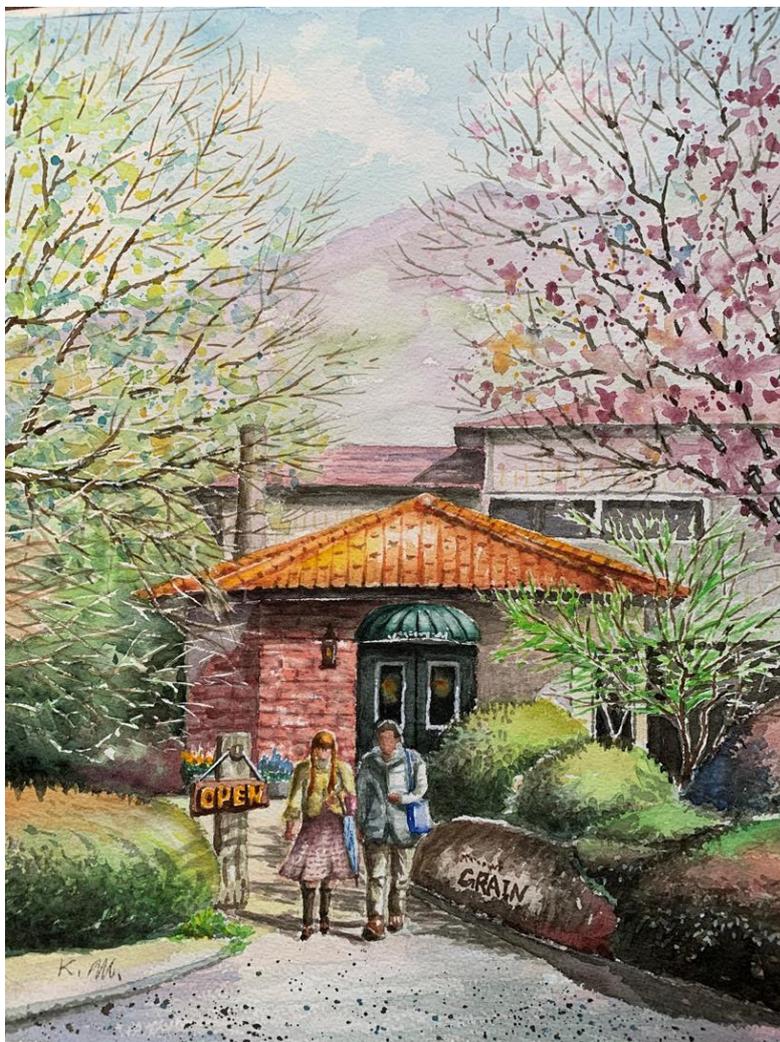


ワタスゲ湿原
の木道からス
ケッチ、友人
が湿原展望
台から白馬連
邦峰を撮影、
その写真とス
ケッチをコラ
ボさせた作品
です。

松本 茂「梅池自然園と白馬連峰」F6（水彩）

早春のある日、箱根を散策中、素敵な食事処で昼食を終えて振り返ると、爽やかなカップルと春の光景が・・・。

松永伍生「春来たり」
F6（水彩）



小高いところにある羽黒山公園から眺めた霞ヶ浦を写生したものです。この後、木の間から見える、輝くような湖の絵にしたいと思っています。

堀内節子「霞ヶ浦」 F3（油彩）



予期せぬ
様々な出来事が、
人々に多大な苦痛
と犠牲を強いて、世
の中を変貌させてしま
う。やがて安定へ。
また繰り返す。

二村邦子「変貌そして安定へ」 P10 (ミックスメディア)

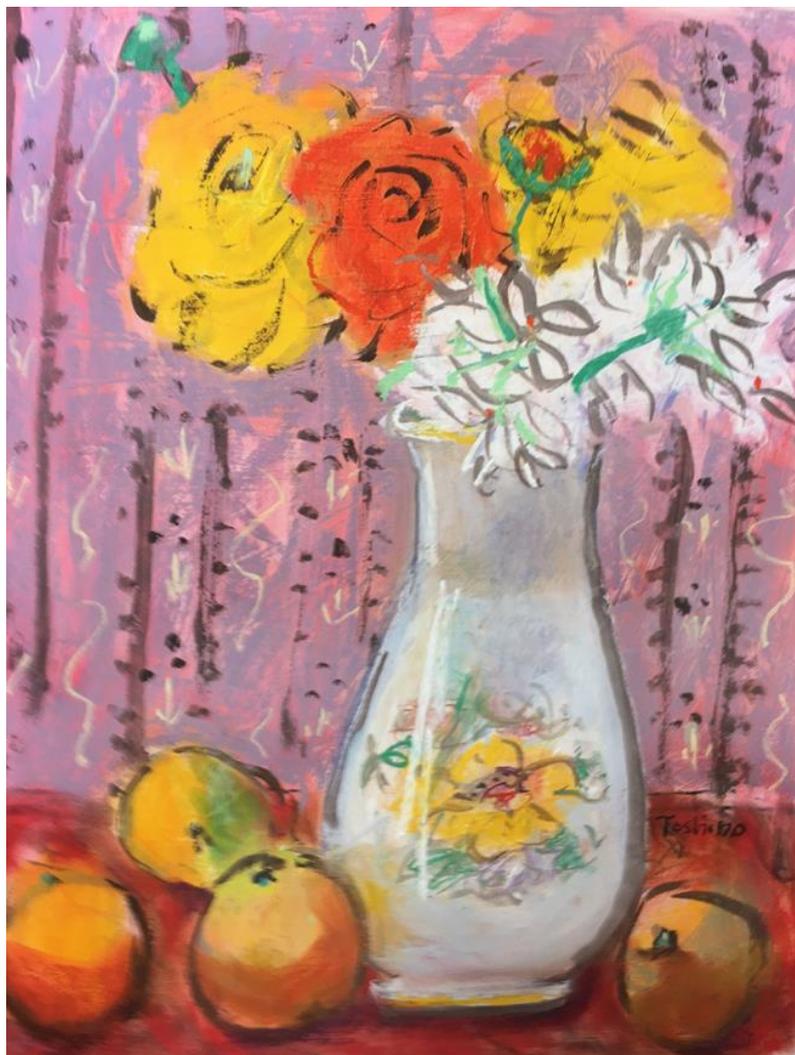


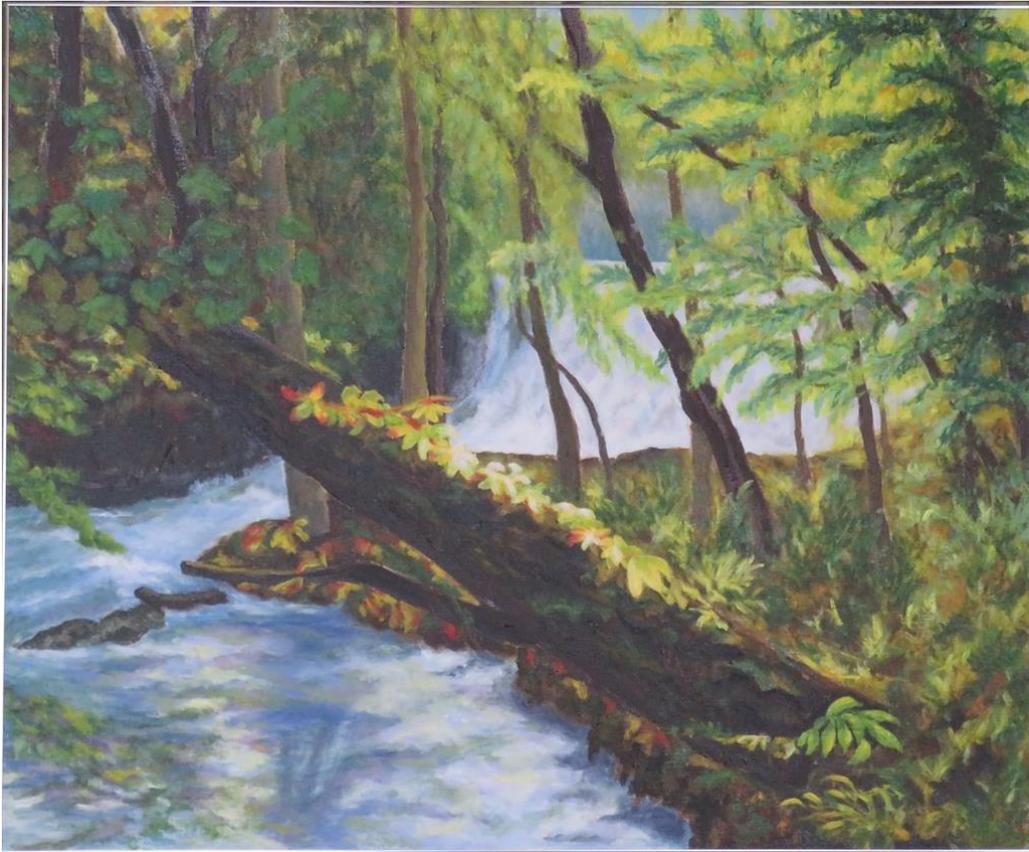
金沢の実家から送られてきた「ずわい蟹」です。
蟹の色が映えるよう、染付けの皿に盛り描きました。

高橋郁子「蟹」 P15 (日本画)

朱色を基調にした絵にしたいと思いま
した。昨年(2020年)春に描きまし
た。

堀越としの「花とオレンジ」
F8 (パステル)

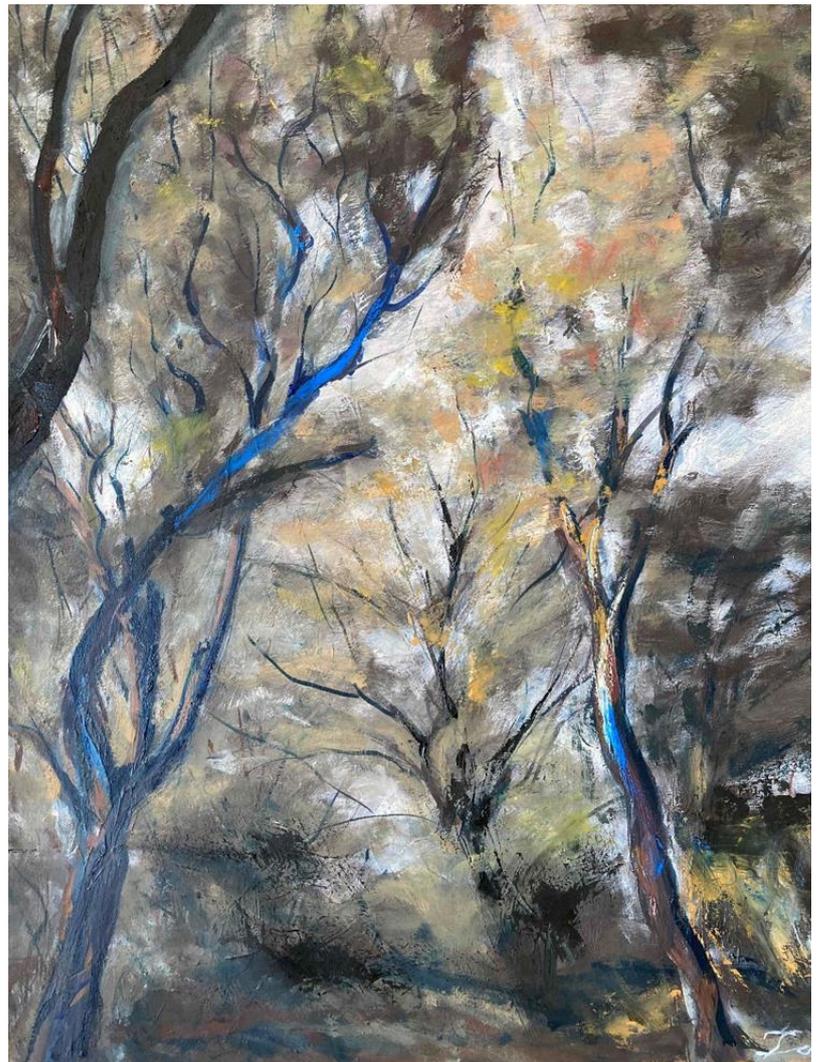




初夏の奥入瀬は
喧騒に満ちた外
界と別世界の佇
まいです。
激しい水の流れ
の「音」を描いて
みました。

野澤修治「溪流2」 F20(油彩)

林をジーと見つめていると、各々の枝がおしゃべりをしています。太い枝も、幼い枝も、不出来な枝もお互い頑張ったり、ゆずりあったりして。



建脇 勉「共に生きる」
F20 (油彩)



2度目の夜景に挑戦しました。上部のライトが多く、回転木馬に焦点を合わせることが苦労しました。

鈴木一雄「ベルリンの回転木馬」F15（油彩）

好きなバラの連作の1点です。豪華さの中にも繊細なたたずまいが気に入っています。



酒井康彦「FLOWER16」
F20（油彩）

母の日に娘が贈ってくれた
カーネーションと牡丹のお花。
優しい華やかな気持ちになり
ました。

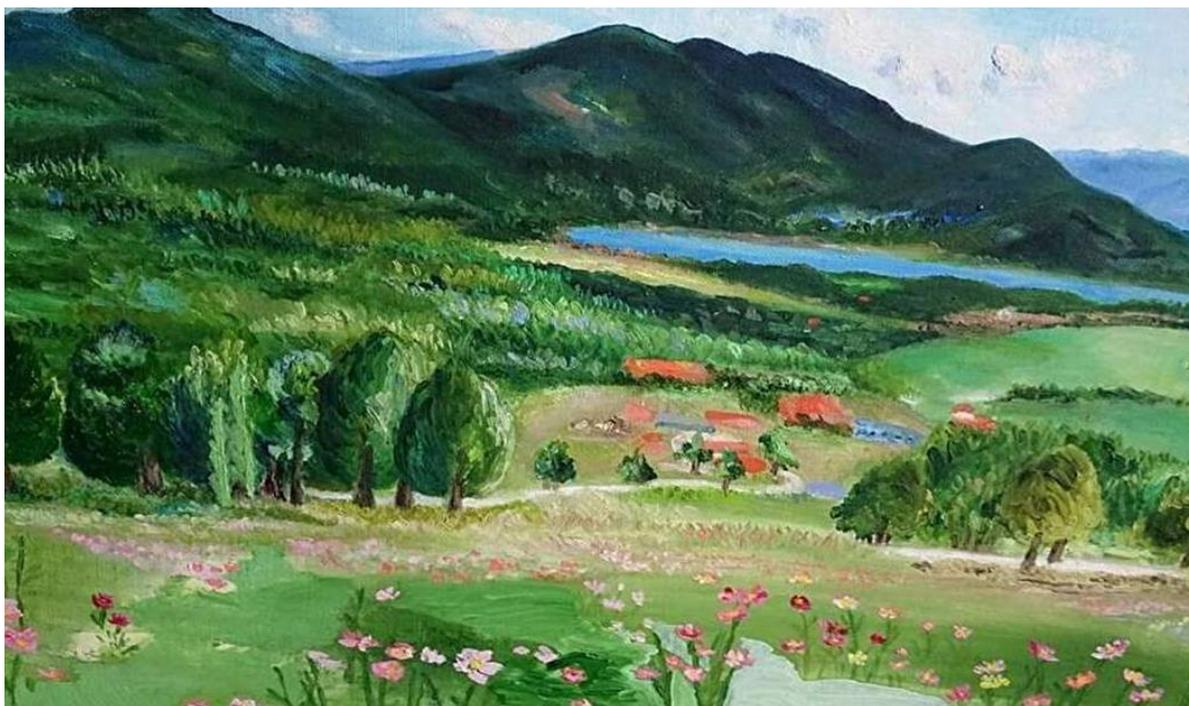


島川恭子「牡丹の花とカーネーション」
変形スケッチブック（水彩）



酒井寿紀「ナポリ・キアア通り」P6（水彩）

10 年ほど前に現地で描いたスケッチに
一部加筆したものです。



1995年9月に訪れた長野県の黒姫高原です。童話館、牧場カフェとコスモスがロマンチックな湖畔。

島川修子「長野旅行のコスモス畑」12号変形（油彩）



ラッキーカラーでコロナを吹き飛ばしたいと思って描きました。

田坂鎮男「錦秋の村」SM（油彩）



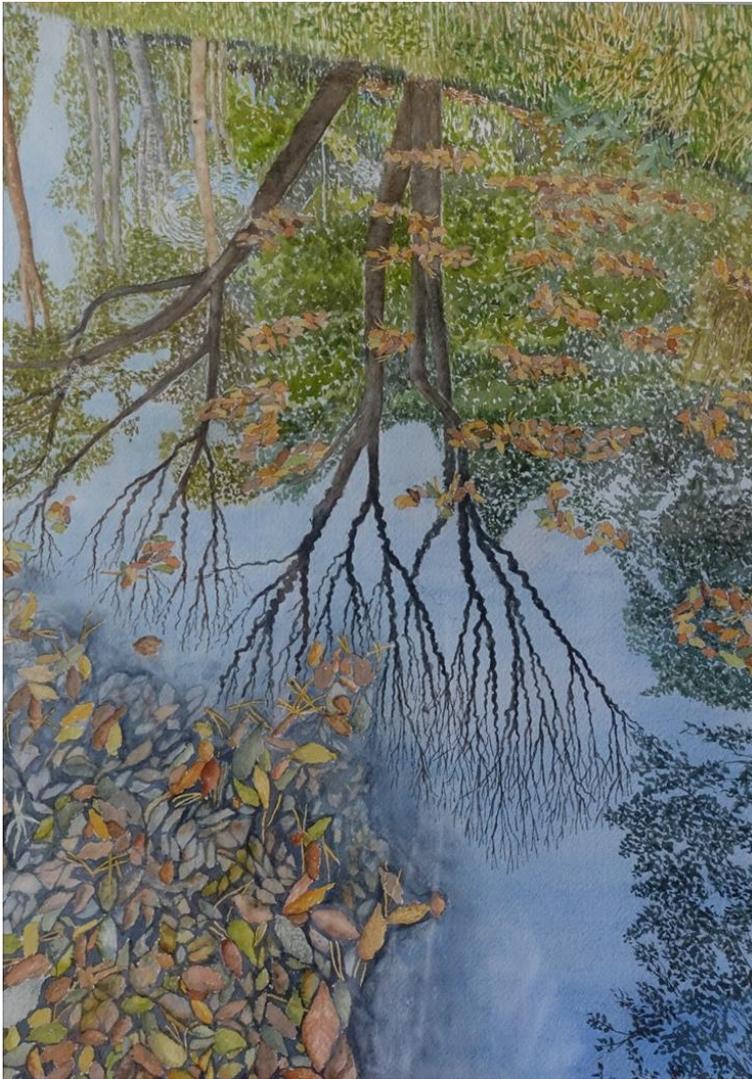
お祝いで頂いた花束が大変豪華だったので、百合の強い香りを感じながら、その場で一気に描き上げた作品です。

源馬和寿「ユリ」P30（油彩）

シャモニーの町を挟んでモンブランの対岸の山合いの湖を写生しました。山は険しい東モンブラン山群です。海拔は約2300メートル。



桑原 裕「Lac Blanc (白い湖)」F30（油彩）



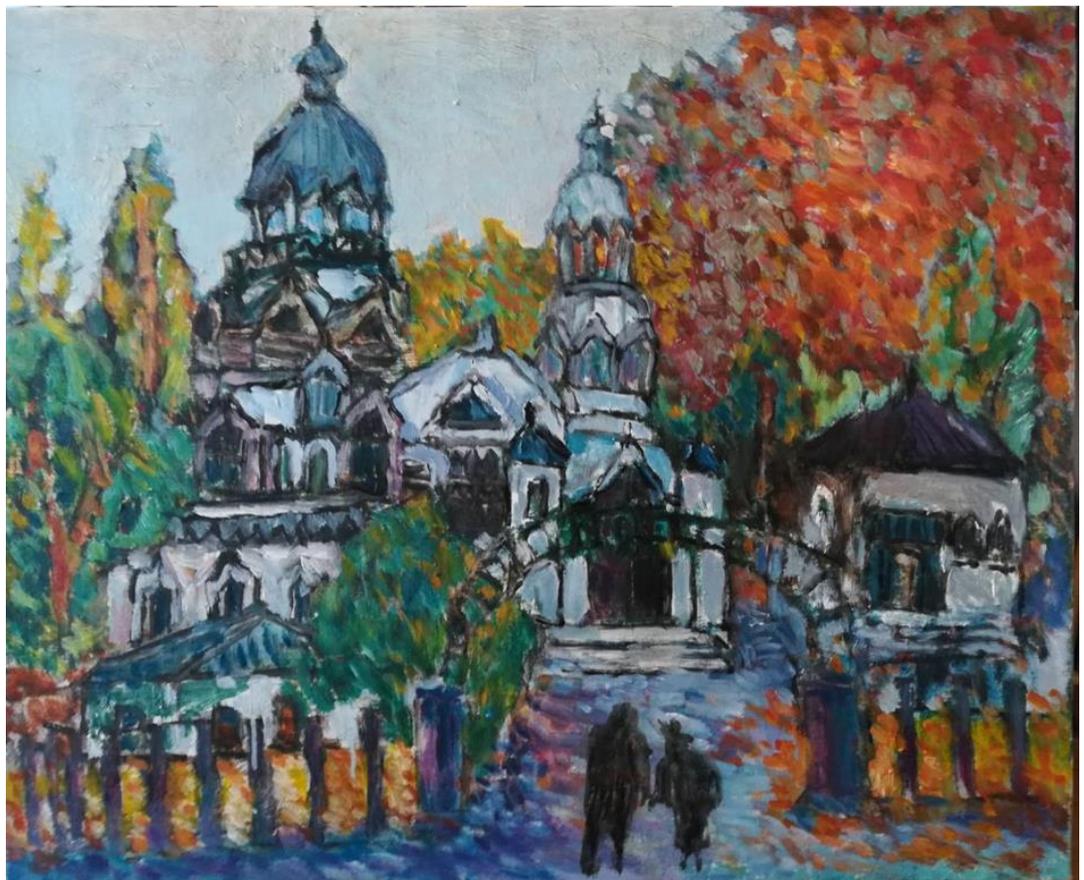
赤城自然園で出会った小さな池の秋の風景です。

水に沈んだ落葉の彩り、池に反射する木々と空の色に心惹かれました。

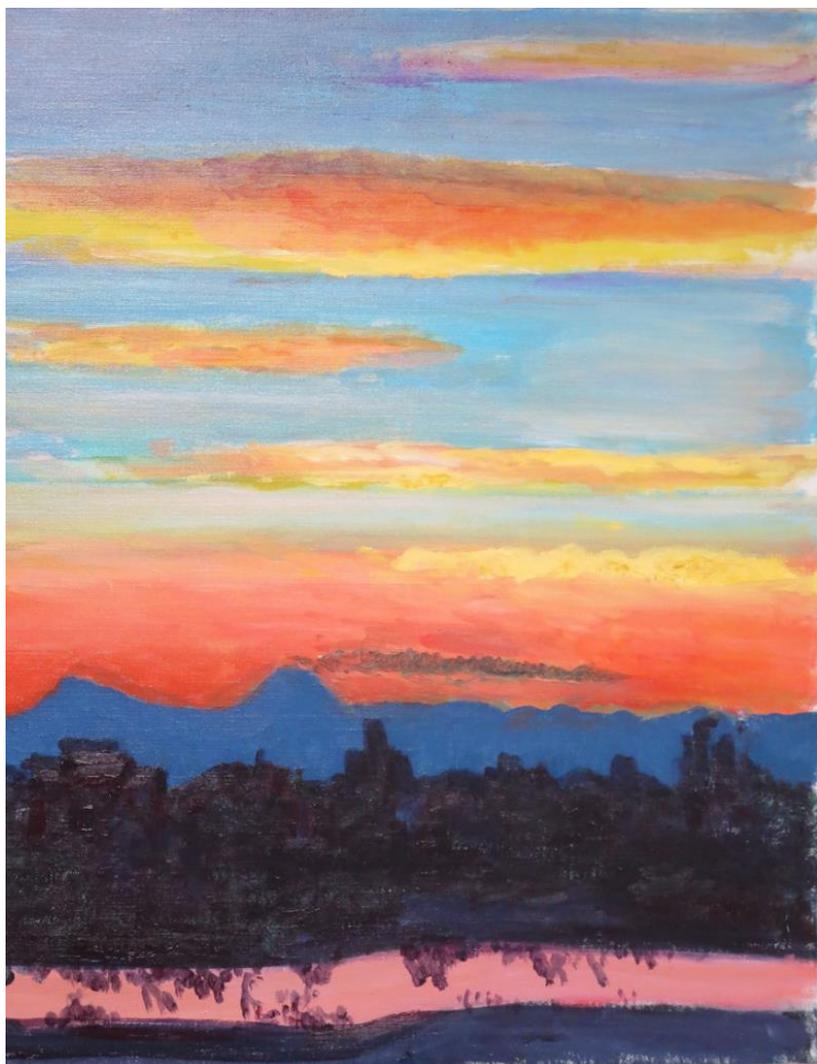
黒田重雄「秋色鏡像」

P8（水彩）

63年前の浪人中、予備校の裏にあった、このニコライ堂のベンチで、毎日昼食にコッパンをかじっていたことを思い出した。懐かしさがこみ上げた。



喜田祐三「錦秋のニコライ堂」F20（油彩）



これまで見たことのない美しい夕焼けに出会いました。おそらく特別な気象条件であられたと思います。

川村善明

「自宅のベランダから見た夕焼け空」

F12（油彩）

平成25年5月に山形(酒田市)に旅行した時スケッチしたものです。

翌年、日立 OB 美術会展に出展し、皆さんのコメントをもとに春らしさを濃くするため、前景を修正しました。

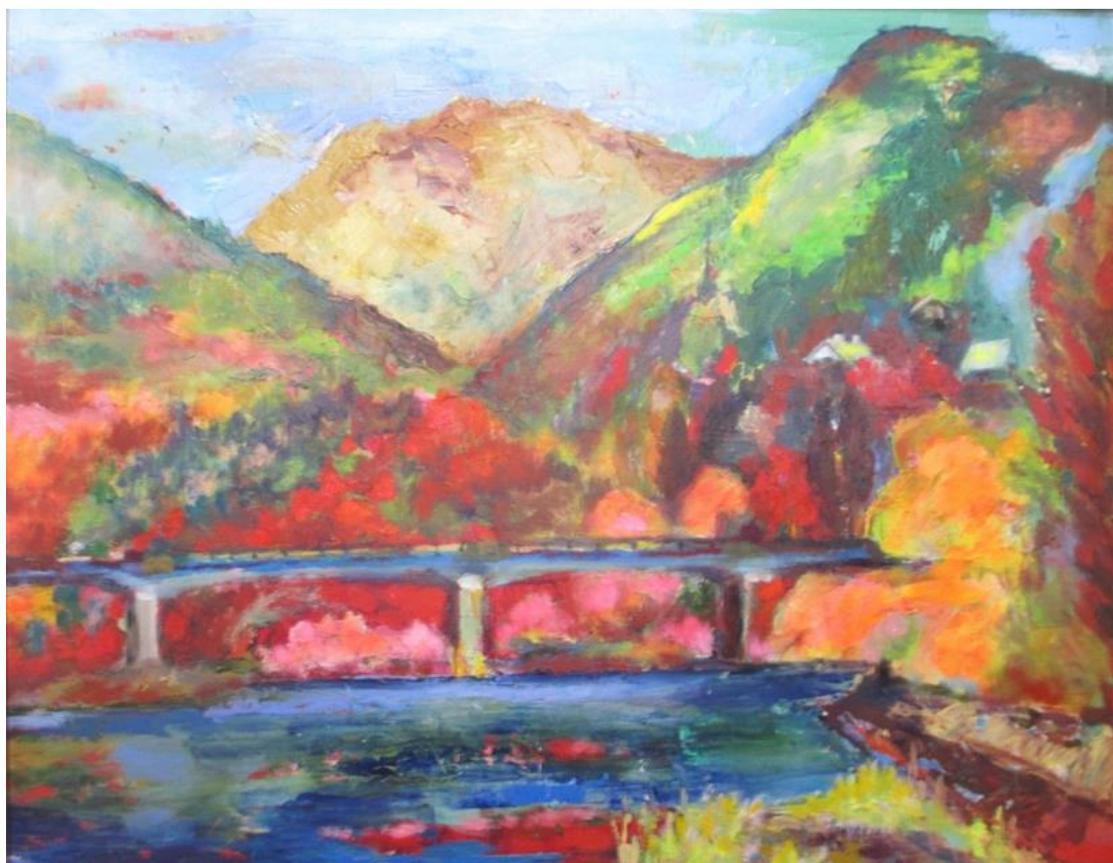


金川敏夫「鳥海山麓の春」 F15（油彩）

冬の白川郷に取材に出かけた。
ライトアップまで4時間も粘って
いたら幸運に雪が舞ってきた！
感動でした！



川島 肇「雪の合掌造り」
F50（油彩）



恩田 博「河口湖」F12（油彩）



日立OB美術会写生旅行

2010年6月11日～14日

幹事の安藤さん以下、計8名参加。
キャンプ場を出発し、往復26000
歩の道のり、安藤さんの案内で写生
地に着く。横尾付近。

写生中に猿の一群がそばを通り驚
く。じっと通り過ぎるのを待った。
この作品は、10年前の写真をもと
に今年(2021)描いたもの。

下方には川が流れている。全部は入
らないので途中から上を描いた。

現場で描いた作品とは別。

粕谷栄治「上高地横尾付近」

F12（油彩）

本作品は第
70回「一線
美術展」に出
品し、一線美
術会員賞を
受賞したも
のです。



大塚健嗣「春爛漫の岩城城址公園」P30（切り絵）



日立 OB 美術会 海外展を 6 回開催。
看板に 舞子を描き 大変好評。
パリ展で 持ち去られた 思い出の作品
です。

大藤啓子「舞子」F10（日本画）

上高地の早春、
田代湿原の化粧柳の芽吹き
は、毎年薄紅色
で美し過ぎて、
とても私には
絵になりません
でした。
今年、思い切っ
て挑戦しまし
た。



大熊善治「上高地、田代池、芽立ち」F6（油彩）



吉祥天の五太子の一人、善膩師童子である。
当初は子供顔と角髪(みずら)の習作であったが、WEB展用に仕上げた。

小倉裕之
「善膩師童子(ぜんにしどうじ)」
F6 (油彩)

スペイン、
ラマンチャ
地方の広大
な畑地にあ
る丘の上に
ドン・キホ
ーテが怪物
と間違えて
戦った風車
が建つ。



植田千秋 「ドン・キホーテの風車」 P10 (日本画)



マメは最近、飼い始めた「インコ」です。
初めこの絵は「マメ」を中心にするはずでしたが、娘の肩に止まった「マメ」は主題にできずに、つい、娘が中心になってしまいました。
私にとって、「娘」も「マメ」もどちらもかわいいもの。

岡田理子「娘とマメ」 F6（水彩）

2015年秋、
水彩仲間 4
人で安曇野
に一泊旅行
した時の写
真から。
雪景色にし
て描いてみ
たものです。



石川良教「白馬村冬景色」 P10（水彩）

遠藤の遠で絵を描くことにしました。
でも漢字は中国の人が創った文字で
す。それで“えんどうかずえ”と画面全
体に書き散らしました。

仮名は改良が得意な日本人の面目躍
如たる文字だと思います。

そうそうローマ字も知っているわと、
隅に描きました。四角い窓の中に渦巻
き(銀河のつもり)を描いて思いまし
た、私は何て小さな存在。

(A self portrait)



遠藤和枝「自画像」

F20 (油彩画)



市川武弘「瀧雲」F50 (水墨)

大自然の贈り
物、ボールの
ように流れる
雲、何と感動
的か！

コロナを洗い
流すような、
そんな未来を
思わせる大き
な力を感じる。



晩秋の青空の下、樹々の紅葉の中、石灰石の城門への坂道を行くと落ち葉と樹々の影と光・・・私の好きな世界に出会いました。

岩柳要子「木漏れ日(ハンガリー)」
F6 (油彩)

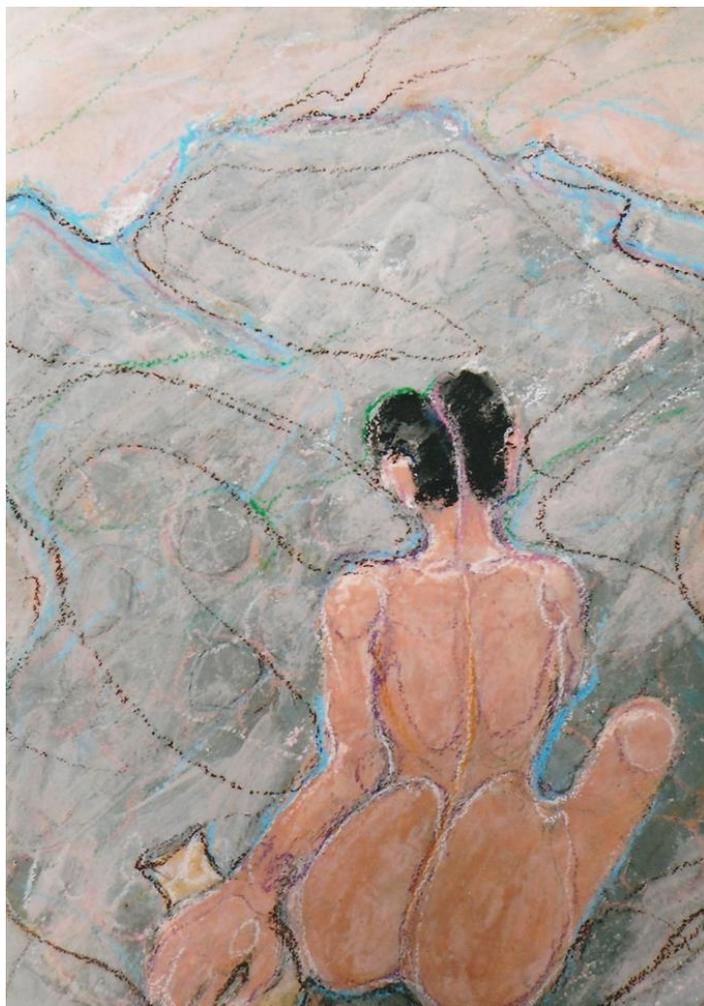
この場所でイーゼルを構えるには許可が必要なので、結構な陣取り合戦が有るとの事でした。私の退職当時の話です。



安藤 雅「絵描きの集まる丘」 F100 (油彩)

ふるさとの山として、浅間はたくさん写生したが、何か物足りなかった。「浅間山と裸婦」は夢の中の風景として表現してみた。

井出勝彦「浅間山と裸婦」
P10（ミックスメディア）



コロナ禍で外出が制限され、人との繋がり的重要性を実感しています。芍薬の華やかさを表現したく描きました。

有田まさみ「芍薬」P6（水彩）



今年は東日本大震災が発生して10年目です。芭蕉は松島を出て、「平泉へ行こうと出発したが、道を間違えて石巻港に出た。数百艘の運送船が湾内に集まり、人家は空き地もないほどにぎっしり建ち並び、炊事の煙が数多く立ち昇っている」と、「おくのほそ道」に記述されています。芭蕉達が震災の後、石巻を再訪したらどう思うだろうかと考え、絵にしました。

池川正人「再訪石巻」
F30（水墨）

「早く、日立美術展が開催出来、そして僕にも恋人が出来れば良いのだがなあ～」と苔の中の小仏達が祈ってくれているのでは？



天野雅之「三千院の小仏たち」F20（油彩）



昨年 2 月にモロッコを周遊。北部の街、シャウエンの朝、蒼く彩られた屋並みに映える光と影が印象的でした。

池田 整 「シャウエンの朝」 F10 (油彩)

以上